

PASSION通信

平成29年6月1日～平成29年11月30日

ごあいさつ
連結財務ハイライト
連結財務諸表



サカタのタネ

PASSION in Seed

造園緑花事業 ——
「花」「樹木」「芝生」「野菜」でトータルに対応

当社代表取締役社長 坂田 宏が
「黄綬褒章」を受章



| 温故知新 | サカタのタネ ルーツを探る! 物語③-前編

最優秀賞「国土交通大臣賞」に輝いた
「俣野別邸庭園(内苑)」整備工事

Vol.6

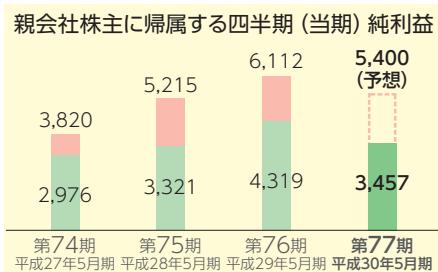
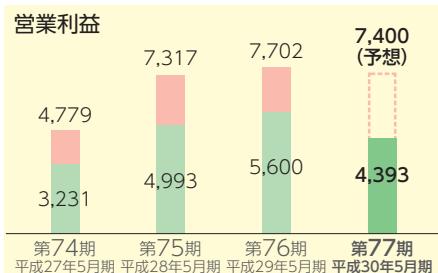
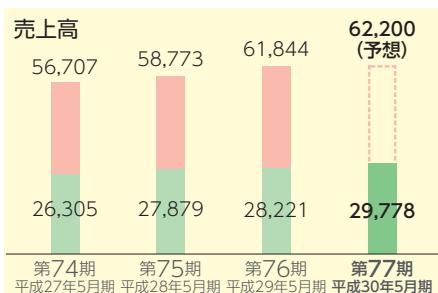


第 77 期
中間株主通信

株式会社 サカタのタネ
SAKATA SEED CORPORATION

証券コード 1377

■ 中間期 ■ 通期 (単位: 百万円)



株主の皆様におかれましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第77期第2四半期(平成29年6月1日～平成29年11月30日)の業績ならびに通期の見通しについてご報告いたします。

当第2四半期の業績について

■ 当社グループの当第2四半期累計期間における連結業績は、前年同期に比べ増収減益となりました。

具体的には、売上高が297億78百万円(前年同期比5.5%増)、経常利益が46億49百万円(前年同期比20.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益が34億57百万円(前年同期比20.0%減)になりました。

■ 円安効果もあり、海外の売上げが堅調に推移して増収となりました。利益面では、原価率の上昇や将来の成長へ向けての費用の増加などから減益となりました。

海外では、野菜種子のブロッコリー、トマト、キャベツ、ペッパーなどが売上を大きく伸ばし、花種子につきましても、トルコギキョウが引き続き好調であったほか、ガーベラ、プリムラ、ダイアンサスなどの多くの品目で売上が伸びたことなどから、増収となりました。

国内では、卸売事業は長雨や台風などの天候の影響もあり、ブロッコリーが増収であったものの、トマト、ハウレンソウ、コマツナなどの野菜種子の売上が減少したことから、減収となりました。花種子は、



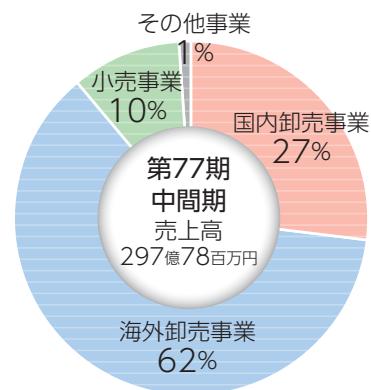
代表取締役社長

坂田 宏



パンジー・ビオラ、ヒマワリの売上は増えてきましたが、ストック、ケイトウなどの売上が減少しました。資材は、被覆材や鋼管などの農業用ハウス関連資材の値上げ前の駆け込み需要、天候不順に伴う高機能液肥及び保温資材の早期受注により増収となりました。小売事業については、天候不順の影響や苗木や園芸用資材の販売鈍化、また引き続き不採算商品の整理を行っていることにより、減収となりましたが、業務コストの圧縮にも努めた結果、利益面では改善いたしました。

事業部別売上高構成比



第77期通期の見通しについて

■ 当第2四半期の業績が計画を上回ったことや足許の為替レートの状況を受け、通期の業績予想を当初の予想から上方修正いたしました。

当第2四半期の業績は、売上、利益ともに期初の予想を上回りました。また、為替が対ユーロで期初の想定よりも円安に推移していることから、想定為替レートを1ユーロ=120円から1ユーロ=130円に変更しました。なお、米ドルについては1米ドル=110円と従来から変更はございません。

これらにより当社グループの第77期通期の連結業績予想は、売上高は622億円(当初予想比2億円増)、営業利益は74億円(当初予想比7億円増)、経常利益は76億円(当初予想比5億円増)、親会社株主に帰属する当期純利益は54億円(当初予想比3億円増)と見込んでおります。

利益配当に関する方針

利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と考え、中長期の経営視点から、各期の連結業績を勘案し、経営体質及び経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、かつ安定的、継続的な利益配分を行うことを基本方針としております。

当期の配当につきましては、中間配当はこの方針に基づき1株につき10円、期末配当は15円の配当を実施することを予定しております。

第77期の配当金額 (1株当たり配当金)

中間配当	期末配当	年間
10円	15円 (予定)	25円



連結財務諸表

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 平成28年11月30日現在	当第2四半期 連結会計期間末 平成29年11月30日現在	前連結 会計年度末 平成29年5月31日現在
【資産の部】			
流動資産	66,030	74,159	72,016
固定資産	42,555	45,926	44,152
資産合計	108,585	120,086	116,169
【負債の部】			
流動負債	11,676	13,728	14,545
固定負債	7,351	7,798	7,530
負債合計	19,027	21,527	22,075
【純資産の部】			
株主資本	90,439	94,423	91,780
その他の 包括利益累計額	△1,020	3,978	2,152
非支配株主持分	139	157	160
純資産合計	89,558	98,559	94,093
負債・純資産合計	108,585	120,086	116,169

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 平成28年6月1日から 平成28年11月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成29年6月1日から 平成29年11月30日まで	前連結 会計年度 平成28年6月1日から 平成29年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	5,343	3,372	7,613
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,401	△987	△2,901
財務活動による キャッシュ・フロー	△635	△461	△2,016
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△475	247	△57
現金及び現金同等物の 増減額	2,831	2,171	2,637
現金及び現金同等物の 期首残高	11,497	14,134	11,497
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	14,328	16,306	14,134

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 平成28年6月1日から 平成28年11月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成29年6月1日から 平成29年11月30日まで	前連結 会計年度 平成28年6月1日から 平成29年5月31日まで
売上高	28,221	29,778	61,844
売上原価	10,836	12,349	28,269
売上総利益	17,385	17,428	33,574
販売費及び 一般管理費	11,785	13,035	25,871
営業利益	5,600	4,393	7,702
営業外収益	454	392	868
営業外費用	178	137	321
経常利益	5,875	4,649	8,250
特別利益	99	315	104
特別損失	22	10	36
税金等調整前 四半期(当期)純利益	5,953	4,954	8,318
法人税等合計	1,617	1,483	2,172
四半期(当期) 純利益	4,335	3,471	6,145
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	16	13	33
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	4,319	3,457	6,112



会社の概要

商号	株式会社 サカタのタネ
英文社名	SAKATA SEED CORPORATION
創業年月	大正2年(1913年)7月
設立年月	昭和17年(1942年)12月
資本金	135億円
本社	横浜市都筑区仲町台二丁目7番1号
従業員数	676名(連結2,297名)

株式の状況

発行可能株式総数	104,000,000株
発行済株式の総数	48,410,750株
株主数	20,547名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社ティーマ興産	7,607,996	15.71
株式会社みずほ銀行	2,245,500	4.63
株式会社三井住友銀行	1,990,760	4.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	1,957,200	4.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	1,676,300	3.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口9	876,200	1.80
JP MORGAN CHASE BANK 385632	766,141	1.58
株式会社横浜銀行	744,047	1.53
キッコーマン株式会社	678,000	1.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口5	627,900	1.29

(注) 当社は、自己株式3,410,187株を保有しておりますが、上記10位からは除外して記載しております。

役員

代表取締役社長	坂田 宏
常務取締役	内山 理勝
常務取締役	加々美 勉
取締役 上席執行役員	金子 英人
取締役 上席執行役員	本田 秀逸
取締役 上席執行役員	宇治田 明史
取締役 上席執行役員	黒岩 和郎
取締役 上席執行役員	古木 利彦
取締役(社外)	菅原 邦彦
取締役(社外)	井原 芳隆
常勤監査役	遠田 光雄
監査役(社外)	長谷川 上功
監査役(社外)	沼田 安功
上席執行役員	中井 智二
上席執行役員	米本 丈夫
執行役員	黒木 達司
執行役員	三浦 高明
執行役員	齋藤 弘佳
執行役員	高宮 全一
執行役員	土門 賢一
執行役員	榎本 真也
執行役員	川村 学
執行役員	小津 聡



造園緑花事業——「花」「樹木」「芝生」「野菜」でトータルに対応



山下公園・水の守護神像噴水花壇
(横浜/昭和35年 当社施工)



ランドマークプラザ
「サカタのタネ ガーデンスクエア」(横浜)

昭和8(1933)年、「庭園部」として設立された造園緑花事業[※]は、創業者の「横浜を花でいっぱいになりたい」という思いを受け、横浜・山手地区の外国人邸宅の西洋庭園の設計・植栽施工からスタートしました。その後、横浜市を中心とする公共工事や民間住宅の植栽工事にも進出し、現在では商住空間の造園設計・施工・管理、都市公園や道路の緑花空間演出や指定管理業務、競技場や校庭の芝生造成・管理など、ランドスケープ全般にわたる幅広いビジネスを展開しています。

植物のプロである種苗会社として花や樹木・芝生・野菜などの高品質な種苗を供給し、造園の企画・設計・施工・管理に至るまで一貫して対応できる点が、当事業の強みです。さらに、都市部でも環境に配慮した街づくりが進められる近年、当社は病院・学校・集合住宅・オフィスの屋上緑化などにも対応し、緑のある豊かなライフスタイルを提案しています。

今後、次々と国際的スポーツイベントや園芸関連イベントが予定され、造園業界にも大きな期待が寄せられる中、当社は「花と緑の魅せ場をつくる」をテーマに、人々の暮らしと自然をつなぐ造園緑花事業をさらに積極的に推進してまいります。

※本来は「緑化」と表記されますが、当社では「緑も花も」という意味を込めて「緑花」としています。



上野恩賜公園(東京)



国営アルプスあづみの公園(長野)



日産スタジアム(横浜)

当社代表取締役社長 坂田 宏が「黄綬褒章」を受章

当社代表取締役社長 坂田 宏は、平成29(2017)年秋の褒章において、「黄綬褒章」を受章いたしました。

「黄綬褒章」は、農業、商業、工業などの業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方に与えられる褒章です。

今回の受章は、長年家庭園芸産業に従事し、事業の発展と都市緑化の推進に尽力するとともに、公益社団法人 日本家庭園芸普及協会役員として業界の発展に寄与した功績が認められたものです。



戦後の焼け跡から再出発し、 F₁育種で急成長を実現

成長期

“花のサカタ”の茅ヶ崎試験場

茅ヶ崎試験場は戦後の荒廃から立ち直ったが、主力はやはり花の育種と栽培だった。

中心は輸出用ペチュニアで、特に武雄の情熱が結実したのは昭和32(1957)年発表の赤白模様で多花の一重咲きペチュニア「グリッターズ」だった。その年のAAS銅賞を受賞、一重咲きペチュニア時代を加速させた。戦前の「ビクトリアス」シリーズに続き、最高水準のF₁品種を発表した当社は、世界の園芸界で“ペチュニアのサカタ”と呼ばれ、花の育種会社として不動の地位を占めるようになっていった。昭和41(1966)年に花径約12cmの大輪パンジー「マジェスチック ジャイアント」の開発に成功。「マジェスチック ジャイアント ミックス」と「同ホワイト ウィズ ブロッチ」がAAS銅賞を受賞し、世界に実力を認められた。

1960年代の野菜部門はF₁品種育成の初期段階にあった。日本は高度成長期に入り、多くの農産物も大量生産・大量消費の要請に応えなければならず、花や野菜の品質も均一であることが要求された。これに応えられるF₁品種は“理想のタネ”としてもてはやされるようになった。当社は昭和32(1957)年の「^{そさい}全日本^{きんぱい}蔬菜原種審査会」でF₁キャベツの新品種「金盃」が農林大臣賞を受賞、春キャベツを代表する品種となった。



「金盃」の畑



昭和20(1945)年ごろの茅ヶ崎試験場



「マジェスチック ジャイアント ミックス」

さらに野菜の品種育成を進める必要を感じた当社は、昭和35(1960)年4月、藤沢市の4haの土地を購入して「長後試験場」を開設。移転後には現在もキャベツの名品として名高い「^{きんけい}金系201号」や「^{きんしゅん}金春」を作り出している。

昭和34(1959)年4月には長野県の高地(標高700m以上)に「三郷試験場」を開設した。高冷地に設けた農場で適応性を調べ、試作を行う必要が生じてきたためだった。

